

## 令和6年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校

校長 西東 直人

### 1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

### 2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

### 3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
- (3) 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力及び社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

### 4 今年度の重点目標

- (1) 「働きやすい学校」を目指す～生徒も先生も笑顔で過ごせる学校に～
- (2) 主体的に行動できる生徒の育成～「自律」セルフコントロールを重視～
- (3) 目的と手段を分ける指導
- (4) 「選ばれる学校」「行きたくなる学校」を目指す。
- (5) 落ち着いた学校生活にする勘所～教育の勘所～
- (6) 教職員の働き方改革

(様式2)

R6

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
1 「働きやすい学校」を目指す ～生徒も先生も笑顔で過ごせる学校に～	① いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 A よくはてはまる B まあまあはてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	C・Dの割合が30％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	教員アンケートを実施する。	A 57％ B 43％ C 0％ D 0％ (アンケート結果)	学年主任とクラス担任などで情報共有する様子がよく見られ、未然防止や早期発見できる同学年間での関係作りができていた。引き続きいじめアンケートと生活アンケートだけでなく、日頃からの生徒観察や情報共有の輪を広げていきたい。
	② 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任等が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良に対して、生徒及び保護者に面談等を通じた確認を行い、早期の対応に取り組む。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70％以上の場合は指導方法を再検討する。	教員アンケートを実施する。	A 13％ B 70％ C 17％ D 0％ (アンケート結果)	A+Bの結果が80％を超える結果を数年にわたって継続できている。引き続き、成績システムの資料を学習指導に活用していけるよう、働きかけていきたい。
2 主体的に行動できる生徒の育成 ～「自衛」セルフコントロールを重視～	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90％以上 B 80％～90％未満 C 70～80％未満 D 70％未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	5月末時点での実績による。	A 90％以上 5月現在 運動部 445 文化部 217	部活動加入率は、昨年度とほぼ同じである。運動部ならびに文化部ともに頑張っている。
		【努力指標】 引き続き、高い1年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90％以上 B 80％～90％未満 C 70～80％未満 D 70％未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	5月末時点での実績による。	B 80％～90％未満 89％ 部活動の加入人数211人	今後も全員の入部を促していく。
		【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	部活動の実績による。	A 7部以上 県大会優勝 弓道・剣道・相撲・新体操・バドミントン・水球・吹奏楽部・生花部・エレクトロニクス部・電気技術部・建築部・土木技術部など	どの部も、よく努力した。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70％未満の場合は、再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 47％ B 37％ C 10％ D 6％ (アンケート結果)	A・B合わせて80％を超えている。部活動顧問の指導のもと、満足のいく活動ができていると考えられる。
	② 応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら求めて応援を指導する。	高校相模での会場で応援する人数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	Dの場合は、対策を検討する。	当日の調査による。	A 300人以上 全校応援を実施 700人以上が参加した。	4月中旬より応援団長のリーダーシップのもと、応援練習を計画的に行ったことによって、当日は参加生徒一丸となって応援を行うことができた。
		【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して A 大変実感できた B 実感できた C あまり実感できなかった D 全く実感できなかった	C・D合わせて30％以上の場合は取り組みを再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 45％ B 45％ C 7％ D 3％ (アンケート結果)	学校応援ポロシャツ及びキャップを着用しての応援を通して、愛校心を高めることができた。
	③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に A 主体的に取り組んだ。 B 少し主体的に取り組めた。 C あまり主体的に取り組めなかった。 D 主体的に取り組めなかった。	C・D合わせて30％以上の場合は取り組みを再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 77％ B 21％ C 2％ D 0％ (アンケート結果)	どの企画も、生徒が主体的に取り組んだ成果が表れていた。また、準備から当日まで充実していた。
	④ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	参加人数を確認する。	A 100人以上	金沢マラソン、護国サポーターのボランティア等、積極的に参加した生徒が多い。
	⑤ 全校応援や式典等の際に、校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80％以上である B 70％～79％である C 60％～69％である D 60％未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	教員アンケートを実施する。	B 70％～79％である しっかり出来ている 25％ 概ね出来ている 53％ あまり出来ていない 15％ 出来ていない 7％ (アンケート結果)	全校での応援練習ができ、高校相模金沢大会の全校応援でも校歌斉唱ができた。 昨年度以上の成果が得られているので、引き続き続けていきたい。
	⑥ ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	資格取得の結果により判断する。	C 40人以上60人未満 51人	今年度のジュニアマイスター受賞者数は51人であった。資格取得に関する案内に加え、申請前のアナウンスを含めたサポートを引き続き行い、受賞者の増加につながる支援をしていく。
	⑦ 就業体験学習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C、Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	該当生徒へのアンケート	A 67％ B 33％ C 0％ D 0％ (アンケート結果)	A回答が昨年よりも減少した。受入企業は前向きに体験内容を考えてくれているが、近年は暑さ対策や安全面を優先すると、生徒の活動を限定せざるを得ないようだ。これが生徒にとっては物足りないのかもしれない。企業の実情、生徒にとって良いこと、次年度に向けて両者のバランスを考えていきたい。
	⑧ 高校生ものづくりコンテスト大会（施設、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等）及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指標】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会（ブロック大会入賞） C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	後期の実績による。	【機械科】B 【電気科】B 【電子情報科】C 【建築科】B 【土木科】C	【機械科】 ・高等学校ロボット競技大会 県大会優勝・2位、全国大会出場 ・田サット甲子園 岐阜県大会優勝、全国大会出場 【電気科】 ・高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 県大会優勝・2位、北信越大会2位 全国大会 出場 【電子情報科】 ・高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門 県大会3位 【建築科】 ・高校生ものづくりコンテスト木材加工部門 県大会優勝・2位・3位、北信越大会優勝、全国大会出場 【土木科】 ・高校生ものづくりコンテスト測量部門 県大会優勝、北信越大会出場

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
3 目的と手段を分ける指導	① 学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、授業以外での学習の実施を継続的に調査し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 授業以外でも学習に取り組む生徒の割合を50%以上にする。	授業以外でも学習に取り組むことができた。 A 取り組むことができた B 十分とはいえないが取り組むことができた C 少し取り組むことができた D 取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 32% B 42% C 22% D 4% (アンケート結果)	A+Bの結果が昨年度に比べ大幅に増加し、70%を超えた。従来からの資格取得などを含めた自学の機会の支援とともに、Teams等を利用した課題や宿題の提示、提出など、ICTを利用した学習活動が広まり始めており、学習に取り組む機会を増やせている。ICTを利用した支援が定着するような取り組みを行ってきたい。
	② 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	傘さし運転ゼロ運動時、毎回調査する。	C 5人以上である  9人	今年度は2年生に違反者が6人もいた。カッパを家や学校に置いてきて着ていないなど、管理不足な理由が目立った。カッパに記名すること、玄関のカッパ掛けから持ち帰ること、駐輪場でのカッパ放置による紛失など、物の自己管理から再度指導していく。
	③ 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数（半期） A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	9月末に集計する。	A 5人未満  1M1・1人 1M2・3人 1A・3人 1C・1人 2R・1人 2A・1人 2C・1人	一度の担任指導により、再発しない場合の方が多い。学年が上がるにつれスマホの使用割合が低くなっていくのは、クラス内での人間関係が安定していくことにも関係しているのではないと思う。校内巡視を継続し抑止していくことはもちろんだが、人間関係をうまく作っているようなクラス作りも大切になってくる。
	④ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	各科長報告	【機 械 科】A 【電 気 科】A 【電子情報科】A 【建 築 科】B 【土 木 科】A	【建 築 科】 実習中に刃物での怪我が1件あった。暑さ対策など作業環境を整えることと、安全な作業姿勢を伝えることを重視して安全教育を行う。
4 「選ばれる学校」「行きたくなる学校」を目指す	① クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談ができる A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 37% B 51% C 8% D 4% (アンケート結果)	昨年度A・B合わせて84%に対し、今年度は88%と保健室や相談室を利用しやすくなったと答えた生徒が増え、目標は達成できた。今後はC・Dの利用できないと答えた生徒に対しても取りこぼしがないよう注意していきたい。
	② 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による	A 98%以上  99%	求人票閲覧webサービス活用が2年目に入り、生徒はより多くの企業情報に接するようになった。その結果、生徒が志望する企業の幅が広がった。新たなツールをより良く活用していくため、指導する側も常に更新を心がけていきたい。
		【成果指標】 進学決定率	進学決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による	A 98%以上  進学決定率 100% 92人/92人	今年度、国公立大学への進学者が0人と進学者がいなかった。国公立大学受験者の確保と進学数の向上を意識した指導をしなくてはならない。しかしながら、文系と理系の比率は、理系進学者54人、文系進学者38人で理系進学率59%であった。昨年度は53%であった。
	③ 図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。金沢市立海みらい図書館との連携、協働を図り、ものづくり教育の発信をする。	【成果指標】 一日の平均来館者数	一日当たりの来館人数を平均30人以上を目指す。 A 昨年度、より上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	年間来館者数を集計する。	A 昨年度、より上回った  昨年度の来館者は10037人で開館日数225日、1日来館者数は平均43人であったが、今年度の来館者は12283人で開館日数212日、1日来館者数平均58人であった。また貸出冊数は昨年度約2600冊であったが、今年度は約3100冊であった。	今年度の年4回朝読書活動や図書委員の研修や企画、海みらい図書館との連携を行った。特に、昨年度同様、朝読書期間中に朝の開館を行ったことにより来館者や貸出冊数が伸びた。3年生の来館が多かった。一方、現1・2年生、新入生の来館、貸出をどう伸ばすか課題である。今後も、本との出会いや心の成長、知識・技術の学びなど、生徒が主体的に深い学びができるように取り組んでいきたい。
	④ 広報活動の実施を積極的に行う。全教職員との連携を図りながら、学校広報活動の立案と作成などの統括を行い、積極的な広報活動（SNSやメディアの活用）を図る。	【成果指標】 全投稿のうち、投稿インサイトのリーチしたアカウントがshiko_thをフォローしていない人が50%でした。	全投稿のリーチしたアカウントのうち、shiko_thをフォローしていない割合が50%以上を目指す。 A 昨年度、より上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	投稿インサイトを集計する。	A 昨年度、より上回った  今年度もInstagramを活用した。4月～2月までの時点で60%であった。フォロワー以外の方の閲覧があった。	昨年度より広報の分掌が新設され、新しことを試みようとした。その一つが、SNSを活用した広報活動である。多くのSNSがある中、Instagramを立ち上げ、日々の学校の様子を伝えることで積極的な広報活動を行った。次年度は、今年度より内容をさらに充実させ、部活動や実習内容など本校の魅力や発信していきたい。

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
5 落ち着いた学校生活にする場所～教育の場所～	① 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数（年間）が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	毎日の集計により判断する。	C 2人～3人未満 2. 4人	遅刻の多い特定の生徒が年々増えている印象がある。そういった生徒は保健室や相談室に行く機会も多いように思うので、担任だけでなく健康教育部とも協力して、様々な角度から生徒へのアプローチをしていきたい。
	② 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80％以上 B 70～79％ C 60～69％ D 60％未満	70％未満の場合改善を検討する	生徒アンケートを実施する。	A 80％以上 しっかり挨拶できた 73％ だいたい挨拶できた 26％ あまりできなかった 1％ ほとんどできなかった 0％ (アンケート結果)	元気な声で挨拶をする姿が少なかったが、全校集会などでの呼びかけ後は少しずつ変化が見られるようになってきた。日頃からの意識づけを教員から再度行っていきたい。
	③ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち回りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B だいたい行うことができた C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 80％ B 19％ C 1％ D 0％ (アンケート結果)	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
6 教職員の働き方改革	① 業務のスリム化や平準化とともに、教員各自が健康管理に努め、業務にメリハリをつけ、時間外勤務時間を減らしていく。	【努力指標】 時間外勤務時間月80時間超となった教員数をゼロにする。	時間外勤務時間月80時間超となった教員数が延べ人数で A 一人もない B 5人以下である C 6人以上10人以下である D 11人以上である	A以外の場合は、取り組み方を再検討する。	勤務時間記録を確認する	D 11人以上である 16人	一部の教員は長時間勤務が常態化している。各自が健康管理に努め、業務にメリハリをつけ、時間外勤務時間を減らせるように、業務のスリム化や平準化を進め、時間外勤務時間月80時間朝の教員がゼロになるよう取り組んでいく。
	② 最終退校時刻、定時退校日、学校閉庁日を設定し、働き方を改革していく。	【努力指標】 平日の最終退校時刻の目標時刻20時30分をすべての教員が守る。	平日の最終退校時刻の目標時刻20時30分を守れたと答えたのが A すべての教員である B 75％以上の教員である C 50％以上の教員である D 50％未満の教員である	A・B以外の場合は、取り組み方を再検討する。	教員アンケートを実施する	B 96％ 守れた 74％ 概ね守れた 22％ あまり守れなかった 2％ 守れなかった 2％ (アンケート結果)	引き続き最終退校時刻の設定や毎月2回以上の定時退校日の設定、学校閉庁日の設定など、教職員の業務適正化に向けて取り組んでいく。
	③ 部活動休業日を確保し、ワークライフバランスを向上する。	【成果指標】 土曜日、日曜日、祝日又は振替休日に、年間52日以上の休業日を取得した。	年間52日以上の休業日を取得したのは、 A すべて（34）の部活動である。 B 30以上の部活動である。 C 20以上29以下の部活動である D 19以下の部活動である	A以外の場合は、取り組み方を再検討する。	部活動実績記録を確認する	A すべて（34）の部活動である。	概ね年間活動計画に沿って、活動できた。